

製本のススメ

Vol. 64

朝晩は肌寒く感じますが日中は爽やかで屋内に居るのはもったいないですね。されど紫外線は、もっとも強い季節ですので日焼け対策も大変です。日傘やら帽子やらと女性は荷物が増えて、ちょっと面倒な季節でもあります。

今回も**基本**の話し*4回目*(天票・前票)

さて63号から引き続き、今回は天票です(テンピョウ) ソレは何ですか？という人はこれを機会に覚えてください。背票が背中に付く印ならば、**天票は天袋に付く印**です。中綴じでは、それぞれの頁が重なって(入紙)最後に針金で綴じられますので、背の部分に印があっても見えなくなります。そこで**天(又は地)の袋部分に背票同様の目印をつけます**。この天票は中綴本に限らず、並製本や上製本にも使われる事があります。

前票(マエヒョウ)とは小口側につける印です。昨今 自動機で製本が進む会社では背中よりも前小口のほうが確認し易く、また**ペラ丁合いの場合でも、一目で1枚の不具合が確認できる優れものです**。加工ロットの大きい所では、最近背丁と同時に前票をつけて欲しいとの要望が増えてきました。前票であれば小口は必ず切り落としますから、背を切り落とさない加工(糸綴りやアジロ綴じ)で本を開いたノド部分に背票が少し見えてしまうという事も無いわけです。小口インデックスを付ける要領です。

冊子によってはページを印刷しないデザインであっても、背票や前票・天票で丁合いの順番を確認する事が容易であれば、後加工が極めて速やかでしかも安心できます。**実は、製本代は頁の有無で値段が違うのです**。加工中の間違いが発見できない事を防ぐために、膨大な手間を掛けねばならず割り増し料金になっているのです。

でもこのような印刷をすれば、料金アップは有り得ません。

知っていて決して損な事ではありませんので、ぜひ【背票・天票・前票】を覚えて頂きたい。そしてこれが安全に冊子を作っていく印刷と製本のルールなのです。



Tea break

6月1日になると一斉に冬服から夏服に替わります。これは和服が普段着であった頃、この日に裏地付きの【袷羽織】から裏地無しの【単衣】に替えた風習が残ったものです。明治になり和服から洋服を着る様になったのを機に、政府は6月1日を「夏の衣替え」10月1日を「冬の衣替え」の目安としたそうです。それが今日まで続いているのですね。

by (株) 井関製本